

そよかぜ

SOYOKAZE

第14号
2024年3月発行

ジェンダーギャップを考えよう

ぬき取ってお読み下さい。

2023年6月にジェンダーギャップ指数が発表され、**日本の順位は146カ国中125位**でした。これについて「日本は男女格差が大きい」、「日本は男女平等ではない!」や「日本の評価は低すぎるのでは?」などさまざまな意見が出ました。実際はどうなのでしょう?

今回は、外国で生まれ育って現在久喜市で仕事をしているお二人に、【家庭、学校、仕事、社会、政治】の5分野で、母国での男女格差に関する話を聞きました。外国と日本の違いや共通点を知ることが「日本の男女格差」「真の男女平等社会」などについて考えるきっかけになることを願います。

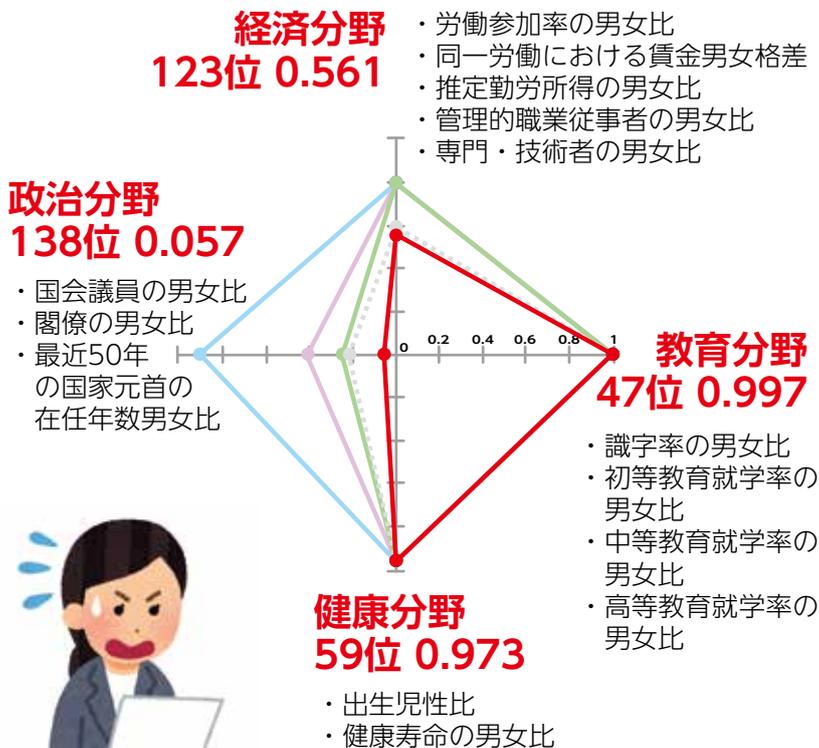
【GGI】ジェンダーギャップ指数 世界経済フォーラム(WEF)が毎年公表している男女格差の度合いを示す指数で、基本は「女性÷男性」で計算する。男女格差が無ければスコアが1.0になり、格差が大きいほど0.0に近づくので、1.0に近いスコアほど良いとされる。**4分野14項目**で評価して、各項目を数値化したスコアをまとめたものがその国の指数となる。

ジェンダーギャップ指数 2023 (総合)

順位	国名	スコア
1位	アイスランド	0.912
2位	ノルウェー	0.879
3位	フィンランド	0.863
4位	ニュージーランド	0.856
5位	スウェーデン	0.815
⋮		
16位	フィリピン	0.791
⋮		
43位	アメリカ	0.748
⋮		
	平均値	0.684
⋮		
105位	韓国	0.680
⋮		
107位	中国	0.678
⋮		
125位	日本	0.647

* WEFが世界146カ国を対象に調査

各分野での日本の順位とスコア



* 他の視点での男女格差指数を4ページに紹介しています

詳しくは内閣府男女共同参画局ホームページへ →



家事や育児に使う時間に男女差は無い



- ・ KATHERINE ORTIZさん (40歳)
- ・ フィリピン カヴィテ州出身
- ・ 2006年4月に大学卒業と同時に観光目的で来日。日本での生活を気に入り、そのまま在住。ALTは9年目で、現在は東鷲宮小学校に勤務 (通称ケイト先生)。
- ・ 家族はフィリピン人の夫と子ども2人。



2023年10月取材時点

【家庭】 フィリピンでは、家事や育児等に使う時間に男女差はありません。以前は主に女性の役割でしたが、今では多くの女性が外で働き収入を得ているので、家事も夫婦で公平にシェアしています。ただ、一部の地域、特に農村部では「女性は家庭で家事や育児をするべきだ」という伝統的な考えが残っているようです。

女性は、3か月の産休後に就労します。私の母も産休後すぐに職場復帰しました。子どもの世話は、フィリピンでは一般的にハウスキーパーか、祖母などの家族に手伝ってもらいます。

フィリピンでは家庭の重要な物事を決めるのは夫ですが、現在は変わりつつあります。また、兄弟姉妹の一番年上の人、男女に関係なく、親の介護や弟妹の世話をします。

【学校】 フィリピンでは、教育分野での男女平等が進んでいます。学級委員や生徒会に立候補する権利と機会は平等にあり、女性が生徒会長を務めることが多かったです。進学においても女性にも男性と同様にチャンスがあります。

高校の制服は、女性はスカート、男性はパンツが決まりでしたが、大学では女性のパンツ着用が認められていました。学校の名簿は男女混合で、アルファベット順でした。

私が卒業した大学は共学でしたが、エンジニアリングを学ぶ学部だったので男性が多く、女性は3人だけでした。

【社会】 フィリピンでは、男女に関係なく家事はシェアする、という考え方が主流です。

日本では「男性は仕事、女性は家庭」という考え方があるそうですが、女性が平等に家庭と仕事をシェアすることを望むなら、変化していくべきだと思います。

GGI 世界16位



【仕事】 女性は教育/医療/管理職に、男性はエンジニアリング/建設/情報技術にと職種が偏っています。男性教諭も居ましたが少数でした。

男性と女性が同じ仕事をした場合でも、給料は女性の方が少ないです。

フィリピンでは男性の育児休暇制度もありますが、女性よりも短いです。

【政治】 女性政治家はフィリピンでも日本と同様に少なく、男女比は男7：女3くらいの割合です (日本の場合は男9：女1)。しかし昔から、強い女性大統領が居ました。今も副大統領は女性が務めています。女性の政治参加が多いことで、平等さが確保されていると感じます。

(編集部注：フィリピンでは、これまでコラソン・アキノ大統領、グロリア・マカパガル・アロヨ大統領の、2人の女性が大統領に就任。現在の副大統領は、女性のサラ・ドゥテルテ)。

自由な生き方ができるように変わってきた



- ・ JESSE ALAN EHMANNさん (36歳)
- ・ アメリカ合衆国 テキサス州出身。
- ・ 2010年4月から、久喜市内の小学校でALTとして14年勤務。現在は久喜小学校勤務 (通称ジェシー先生)。
- ・ 家族は日本人の妻と子ども2人。



2023年12月取材時点

【家庭】 家事や育児にかかる時間は男女平等ではなく、父よりも母の方が長かったです。そして父は、自分の分担の草刈りとプール掃除を、兄が16歳になった時に兄にやらせるようになりました。一方で母は、私が中学生になったらアルバイトを始めましたが、家事もこなしていました。現在のアメリカは男性が家事に携わる機会が増えたのではないかと思います。

私の祖父は、子どもとの同居は望まなかったため、子どもたちが順番に手伝いに行っていました。アメリカでは基本的に「自分でできることは自分でする」という考え方があります。

【仕事】 アメリカでは男性の小学校教諭は少なく、私の通った小学校では音楽の教諭だけが男性でした。中学校教諭の男女比は半々くらいでした。

会社の秘書やアシスタントは女性の仕事とされているところがありました。リーダー (社長・部長・課長) は実力で決まるようで、父の上司は女性でした。法律的には給料の男女差はありませんが、現実には、男性なら1ドル・女性なら87セントの比率です。先進国の中では、日本もアメリカも給料の男女間のギャップが大きいです。出産に係るお休みは12週間取れますが、有給ではありません。

GGI 世界43位



【学校】 男性のみの「Pep Boys」と女性だけの「Color Guard」という応援団がありました。私はスポーツよりも芸術が好きだったので、芸術性の高い「Color Guard」に入りたいのですが、男性だからという理由で入部を拒否されました。また、文化部に所属すると「男じゃない」と言われることがありました。自分の興味のあることを「自由にやりたい」と思いました。

服装は自由でしたが、女性にだけパンツやスカートの長さに制限があり、制限を超えると女性だけ指導を受けていて、男性との差を感じました。大学進学者の男女比は、昔はほとんどが男性で、私の年代は男女半々くらいでした。学校生活でのリーダーは性別には関係なく、人気のあるアメフト部員かチアリーダーでした。

【社会】 家事や育児の分担について、年齢による考え方の違いはあります。親世代のころに比べ、今は多くの女性がフルタイムで働いているので、分担しているケースは多いと思います。以前は「男性は仕事、女性は家庭」という考えがありましたが、変わってきました。私は「自分でやりたいことをやる」のが良いと思うし、自由な生き方ができるように変わってきていると思います。

【政治】 男性の方が政治資金集めに有利なので、女性の政治参加は難しい面があります。また、女性が議員活動することについて、既婚未婚、子どもの有無、家事育児とのバランスの面で、不利だと言われています。立候補の機会は平等ですが、現実には厳しいです。それでも女性議員は増えていて比率は日本より高いですが、世界の他の国に比べると低いです。しかし今は女性の大統領候補がいます。私の子どものころに比べると、女性立候補者がいることだけでもすごいことです。

いろいろな視点での男女格差指数

【GDI】ジェンダー開発指数 人間開発の3つの基本的な側面である健康、知識、生活水準における女性と男性の格差を測定し、人間開発の成果におけるジェンダー不平等を表している。

日本の順位：76位／191か国（2022年9月発表）

【GII】ジェンダー不平等指数 リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）、エンパワーメント（社会的、経済的、社会的に力をつけること）、労働市場への参加の3つの側面における女性と男性の間の不平等による潜在的な人間開発の損失を映し出す指標。値は、0（女性と男性が完全に平等な場合）～1（すべての側面において、男女の一方が他方より不利な状況に置かれている場合）の間の数字で表される。

日本の順位：22位／191か国（2022年9月発表）

LGBTQ+専門相談案内

■にじいろ県民相談（埼玉県LGBTQ県民相談）

性的指向や性自認に関する悩みについて、県民の方が相談できる相談窓口です。電話とLINEでお受けします。相談無料

☎ 0570-022-282

LINE <https://lin.ee/2f90PQMd>

◎毎週土曜日（年末年始を除く）18時～22時



■埼玉弁護士会 LGBT法律相談（電話相談）

当事者だけでなく、その家族や雇用主、担任教師などの相談にも応じます。（相談無料・匿名相談可能・事前予約は不要）

☎ 048-861-0901

◎毎月第1・第3水曜日（祝日・年末年始を除く）

10時～12時・13時～16時

■よりそいホットライン（一般社団法人社会的包摂サポートセンター）

どんなひとの、どんな悩みにもよりそって、一緒に解決する方法を探します。（相談料・通話料は無料です）

☎ 0120-279-338 ガイダンスに沿って4を押してください。

FAX 0120-773-776（通話による聞き取りが難しい方）

◎24時間年中無休

女性の悩み（カウンセリング）相談

「女性の悩み相談」では、配偶者等からの暴力に関する事、家族・夫婦に関する事、自分の生き方や人間関係等、女性の様々な悩みや心配事について相談できます（要予約）。相談の費用は**無料**です。

また、相談に関する秘密は固く守ります。

相談日程 第1・第3金曜日

面接、電話、オンライン相談

相談会場 久喜市役所（本庁舎）

相談時間 1人**50分**

対象 市内在住・在勤・在学の女性

相談員 女性カウンセラー（臨床心理士）

申込方法 **相談は予約制**です。上記2次元コードを読み取るか、人権推進課へお問い合わせください。



男女共同参画情報紙「そよかぜ」の

バックナンバーはコチラから

ご覧いただけます。

⇒⇒⇒



久喜市は、お互いを認め合える社会を築くため、「人間尊重・平和都市」を宣言しました

編集後記

「そよかぜ」は、市民ボランティアの編集員の方に企画・取材・編集していただいています。

50年ほど前、世界中で「ウーマンリブ」と呼ばれた女性解放運動が起こりました。後の「男女雇用機会均等法」や国連総会での「女子差別撤廃条約」に影響を与えたそうです。日本の男女格差は当時よりは改善しましたが、今回のインタビューで、他の多くの国に比べると「日本はまだ道半ば」と感じました。「そよかぜ」が皆さまの参考になれば幸いです。（杉原 範子）

「男女平等」。言葉だけは一般的になったように思います。しかし、現実はどうでしょうか？少なくとも私は、男女平等である、と感じたことはありません。皆さんはいかがですか？そのような疑問から、今回編集に携わりました。取材を通して、国を越え、これからも男女共同参画を模索し続ける姿勢が大切であると痛感しました。（大熊 陽子）

ジェンダーギャップ指数ランキング14回連続1位のアイスランドも、かつては「男性は仕事、女性は家事・育児」と性別で役割分担する社会構造だったそうです。現在の同国のレベルに1歩でも近付いていけるためには、どう取り組めばいいのか、編集作業を終了したこれからもさまざまな機会を自ら見つけ考えていきたいと思っています。（加藤 孝）

インタビューを終えて、フィリピンがアメリカ的で、アメリカが日本的な、予想とは逆の不思議な印象を受けた。ジェンダーギャップ指数125位は残念な数字だが、ほかの指標ではそれ程ではないのが救いだ。しかし、このままのペースで進むと男女格差が埋まるのは2155年らしい。それさえも我々が努力を怠ると更に遠のいてしまう。（小瀬 誠）

編集員募集中!!

男女共同参画や情報紙づくりに関心のある皆さん、一緒に情報紙をつくってみませんか。

詳しくは下記の久喜市人権推進課までお問い合わせください。



◆発行／久喜市総務部人権推進課

〒346-8501 久喜市下早見85-3 電話：0480-22-1111（内線2322・2325）FAX：0480-22-3319

メールアドレス：jinken@city.kuki.lg.jp この情報紙は62,500部作成し、1部あたりの単価は4円です。

UD FONT VEGETABLE OIL INK 再生紙を使用しています。